

おとこ

被災地の漢たち

2011年9月4日(日)～10月14日(金) 毎週日曜日14:00～15:30 会場:新・港村(新港ピア)

お問い合わせ: press@archiaid.org ※入場無料、但し新・港村のチケット料金(一般:300円)が別途必要になります。特別連携セット券でも入場可能です。

かつて「港」には、「漢」がいました。今回の震災に際し、復興の最前線で汗をかいているのは、そうした漢たちでもあります。しかしながら実際に目にする報道は、耳触りのよい感動秘話やわかった気にさせてくれる学者先生の抽象論が過半ではないでしょうか。アーキエイド展示『半島“へ”出よ』の一環として行われる、トークショー『被災地の漢(おとこ)シリーズ』は、そうしたバイアスを排し、最前線で奮闘しておられる本物の漢たちをゲストに招いて復興の実像を体感する企画です。建築家を相手に語られる骨太の復興論をぜひお聞きいただきたいと思います。(第5回目のみマドンナの登壇です。)

▶Archi+Aid〈アーキエイド〉とは

「東日本大震災における建築家による復興支援ネットワーク〈アーキエイド〉」は、国際的な建築家・大学等とのネットワークを活用して、2011年3月11日に発生した東日本大震災によって被災した地域の復興、建築文化、教育の再生など、様々な形で復興支援のための活動に取り組んでいます。みなさまより集められた資金は、東北大学を核とする〈せんだいデザインリーグ〉によって、被災地の再建支援のための基盤づくりと活動、地震によって被害を受けたデザイン教育の復興と震災知識の集積と啓蒙に充てられます。

▶新・港村での活動について

被災地での復興活動を伝えるための場所を、関東の有志学生で準備しました。本ブース及び展示物のデザインと制作、会期中のイベント等の運営は、Archi+Aid インターンである加藤優一(千葉大学修士二年)の呼び掛けのもと集まった、18名の有志学生により行われております。

「今、この場所から出来ることを」

東北被災地での建築家による復興支援活動を全国の方に知っていただく貴重な機会、その場所を関東にいる私達がつくることが、東北と関東、一丸となった復興活動に繋がっていくことを願っております。互いの今を伝え合うことで、東北と関東の新たな関係を構築され、長期的かつ広域的な復興支援活動の環が広がっていくことを、関東学生スタッフ一同、心より願っております。

Archi+Aid
Relief and Recovery by Architects
for Tohoku Earthquake and Tsunami

東日本大震災における建築家による震災復興ネットワーク

主催:アーキエイド 特別協力:BankART1929

被災地の漢たち

9月4日(日) 14:00-15:30

『被災地のおおきなまちづくり』

ゲスト：釜石市復興プロジェクトチーム参与 岩間正行氏

聞き手：塚本由晴 (東京工業大学准教授)

釜石市の都市・建築行政で要職を歴任、定年直前に発生した大災害に対応し、いち早く復興チームを立ち上げるとともに、先を見据えた支援人材の組織化に獅子奮迅の働きを見せる。アーキエイドとも早くから連携し、伊東豊雄などの力を借りながら、魅力的な復興計画を立ち上げ中。



9月11日(日) 14:00-15:30

『漁業者からみた復興の実像』

ゲスト：石巻魚市場 (株) 代表取締役社長 須能邦雄氏

聞き手：西沢大良 (建築家)

津波で大きく被災した石巻の水産業復興に奮闘。東京水産大(現東京海洋大)卒業後、大洋漁業入社。トロール部で北洋サケマス事業に従事。船団長も務め、シアトルに2年、サハリンに3年の駐在。平成6年石巻魚市場顧問、平成13年から現職。知る人ぞ知る東北漁業界の重鎮。



9月18日(日) 14:00-15:30

『観光と暮らしの間で』

ゲスト：東松島市宮戸市民センター長 奥田邦行氏

聞き手：小泉雅生 (首都大学東京教授)

現在SANAAがボランティアに復興計画を支援する宮戸島のセンター長。宮城県漁連に30年奉職した間に各地の漁協を渡り歩き浜の事情に精通する。退職後は奥松島宮戸島で漁師を営むが、今回の津波で家・財産を一切失う。宮戸島復興対策本部を経て現職。



9月25日(日) 14:00-15:30

『地域づくりは良い建築から』

ゲスト：七ヶ浜町役場政策課 遠藤裕一氏

聞き手：渡辺真理 (法政大学教授)、下吹越武人 (法政大学教授)

七ヶ浜町復興計画策定を最前線で牽引。発災後は自らも避難所で生活しながら、その管理に当たる。現在、復興計画策定に汗をかく一方、アーキエイドと連携して、基幹施設の建替えを復興の起点にすべく、地域と一緒に汗をかいてくれる才能の発掘に奔走中。



10月2日(日) 14:00-15:30

『希望を現実に』

ゲスト：根浜海岸室来館女将 岩崎昭子氏

聞き手：小嶋一浩 (横浜国立大学 Y-GSA 教授)

大西麻貴 (横浜国立大学 Y-GSA 設計助手)

被災した自らの旅館を、地域の人たちに避難所として開放し、助け合いながら困難を乗り越えてきた名物女将。旅館のある地区をグリーンツーリズムの拠点として再生すべく奮闘中。復興は、ひとりひとりの人の中から湧くエネルギーによってなされるということを教えてくれる人物。



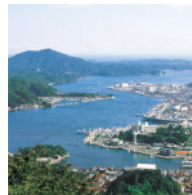
10月14日(金) 13:00-15:00

『津波文化について(仮)』

ゲスト：リアスアーク美術館主任学芸員 山内宏泰氏

聞き手：槻橋修

1971年、宮城県石巻市生まれ。リアス・アーク美術館主任学芸員。アーティストでもある同氏は、2006年に同館にて『描かれた惨状[~風俗画報に見る三陸大海嘯の実体~]』展を企画し、みづから明治三陸大津波被害を小説の形で表現した『砂の城』(山内ヒロヤス、近代文芸社、2008)を著すなど、3.11以前より地域の津波災害へ警鐘を鳴らし続けてきた。今回の惨状を予測できた数少ない人物の一人である同氏が考える、「津波文化」とこれからの教育のあり方について語っていただく。*期間中、高尾隆演出による「記憶の街」を題材にした作品が上演予定。



アーキエイド展示 + 報告会

展示会場：新・港村(新港ピア)内アーキエイドブース

時間：11:30-19:00(金曜は21時まで)

報告会会場：スクール校舎

第3週

8月27日(土)~9月2日(金) 『半島の中の半島』

神奈川大学曾我部昌史研究室、名古屋工業大学北川啓介研究室+近藤哲雄

8月27日(土) 13:00~15:00 研究室キャンプ報告会

曾我部昌史、北川啓介+近藤哲雄

第4週

9月3日(土)~9月9日(金) 『津波被害と浜の未来』

東京工業大学塚本由晴研究室、東洋大学藤村龍至研究室

9月3日(土) 11:00~13:00 研究室キャンプ報告会

藤村龍至、塚本由晴研究室

第5週

9月10日(土)~9月16日(金) 『重層する入江』

東北工業大学福屋粧子研究室+東京理科大学 water edge studio、東京大学隈研吾研究室+千葉学研究室+藤原徹平

9月10日(土) 13:00~15:00 研究室キャンプ報告会

福屋粧子、千葉学+藤原徹平+成瀬友梨

第6週

9月17日(土)~9月23日(金) 『微気候と浜』

首都大学東京小泉雅生+門脇耕三+猪熊純、大阪工業大学前田茂樹研究室

9月17日(土) 13:00~15:00 研究室キャンプ報告会

小泉雅生+猪熊純、前田茂樹

第7週

9月24日(土)~9月30日(金) 『海と陸のつながり』

京都工芸繊維大学仲隆介+城戸崎和佐研究室+神戸大学遠藤秀平研究室+槻橋修研究室+山岸綾

法政大学渡辺真理研究室+下吹越武人スタジオ

9月24日(土) 13:00~15:00 研究室キャンプ報告会

城戸崎和佐、渡辺真理+下吹越武人

第8週

10月1日(土)~10月7日(金) 『半島の拠点と島』

Y-GSA 小嶋一浩 スタジオ / 東京理科大学安原幹研究室 + SALHAUS

10月1日(土) 13:00~15:00 研究室キャンプ報告会

小嶋一浩+大西麻貴、安原 幹

第9週

10月8日(土)~10月14日(金)

気仙沼みらいプロジェクト

10月14日(金) 13:00~14:30

『気仙沼みらい計画プロジェクトについて』

槻橋修+鈴木伸治+陶器浩一+萬田隆+高尾隆

【お問い合わせ】アーキエイド

press@archiaid.org http://archiaid.org

【アクセス】新港ピア 横浜市中区新港2-5

横浜みなとみらい線「馬車道駅」6番出口「赤れんが倉庫口」

ワールドポーターズ方面へ新港ふ頭まで直進 徒歩約10分